

[昭和建設株式会社]

Environment-Report 2018

[環境経営活動レポート:平成 30 年度分]

〈平成 30 年 2 月 1 日～平成 31 年 1 月 31 日迄分〉

エコアクション 21 建設業者向けガイドライン 2009 年度版準拠
(2012 年 1 月 : 環境省)



2019/03/29

経営理念

1. 我々は創意・工夫・熱意で紡いだ技術を提供します。
2. 我々は期待を超える革新的な品質と価値を提供します。
3. 我々は地域社会の一員として安心・信頼を創造します。

社 名：昭和建設株式会社

英文社名：Syouwa Kensetsu Co.Ltd.

設 立：1949年（昭和24年）2月

所在地：本 社 〒933-0057

富山県高岡市広小路6番1号

東京支店 〒103-0023

東京都中央区日本橋本町4-15-11

岩月ビル6階

射水支店 〒939-0341

富山県射水市三ヶ 1418

試験センター 〒939-0255

富山県射水市上条 333

代 表 者：代表取締役 開 章夫

環境管理責任者及び連絡先：宮澤 明

[本社]TEL 0766-24-2561

[本社] FAX 0766-24-2564

事業の概要：舗装工事及び土木構造物の施工

国土交通大臣登録 一般特定 28 第 827 号

土木工事、舗装工事、建築工事、蔦土工工事、

鋼構造物工事、造園工事、浚渫工事、

水道施設工事、外構工事

事業の規模：資本金 4,914 万円

社員数 52名

売上高 約10億61百万円（平成30年度）

ホームページ：<http://www.syouwa-kensetsu.com/>

当社は昭和24年、富山県射水市（旧射水郡小杉町）に設立しました。その後、富山県高岡市に本社を移転し、富山県の高岡市・射水市を中心に土木工事及び道路舗装会社として70年、地域と共に歩んでまいりました。

昨今、建設業界は変化が大きく厳しさは増しておりますが、人々が生活するためにインフラは欠かせないものであり、我々は地域社会の一員として企業の社会的責任（CSR/Corporate Social Responsibility）を果たしていくために、努力してまいります。

我々は、長年培った技術を元に、創意工夫・熱意を持って、期待を超える品質と価値を提供し、地域社会の発展に貢献したいと考えております。

アスファルト舗装工事は我が社の主力であり、これからも地域の人たちの生活や物流になくしてはならないものです。一般土木工事は災害が多発する自然環境の中で安全な生活のため、建築事業は人々の快適な生活のために必要なものです。

東京支店において、平成24年10月より新事業として、推進・シールド工法のDo-Jet工法（ウォータージェット方式）を導入しました。これは、今までは撤去できないと思われていた地中にある障害物をウォータージェットで切断することで安全に施工し、生活インフラを整備する事業です。

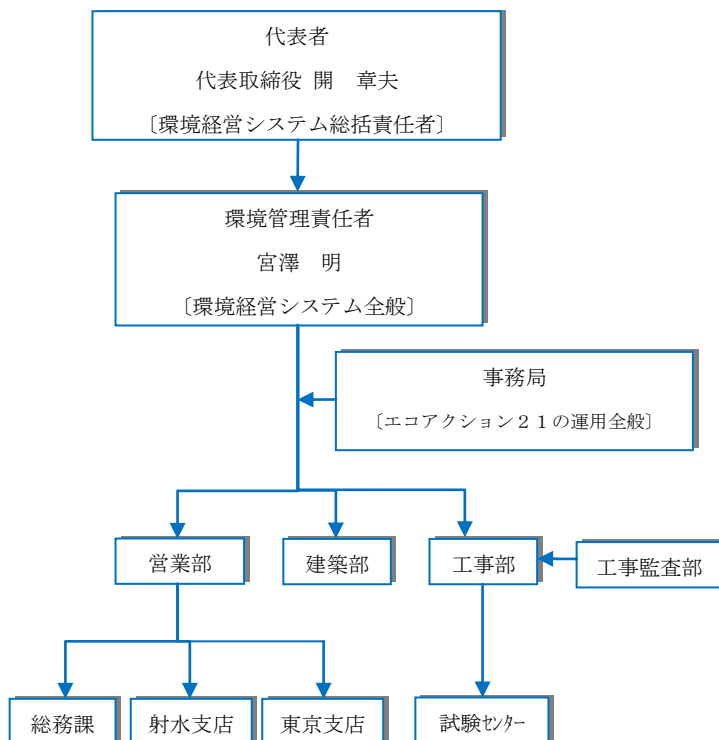
「今まではこれで良かったから、これでいい」ではなく、新しくできることを考え、地域に「昭和建設にやってもらって良かった」と言われる会社になっていかなければならないと考えます。

今後ともより一層のご愛顧、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

エコアクション 21 への取組

- 2006. 9.27 とやま環境財団の自治体イニシアティブへ参加
- 2007.10.19 エコアクション 21 認証・登録(ガイドライン 2004 年版)
- 2009.10 エコアクション 21 更新(2 年毎)
登録範囲を拡大(射水支店を対象へ)
- 2010.3.12 とやま環境財団主催、「エコアクション 21 事業者交流会」にて、事例発表。
- 2010.9.27 中間審査にて「建設業者向けガイドライン(建設業者向けマニュアル試行版)へ移行
- 2011.10.19 エコアクション 21 更新(ガイドライン 2009 年版移行)
- 2012.10.3 中間審査にて「建設業者向けガイドライン 2011 年版(暫定版)へ移行
- 2013.10 エコアクション 21 更新登録
- 2014.10.8 中間審査にて、「建設業者向けガイドライン 2009 年版」へ移行。並びに、登録範囲へ東京支店を拡大し、全組織にて認証・登録となる。
- 2015.10 エコアクション 21 更新(2 年毎)
- 2017.8.25 エコアクション 21 中央事務局より継続 10 年表彰
- 2017.10.19 エコアクション 21 更新(2 年毎)
- 2018.10.30 エコアクション 21 中間審査

EA21 実施体制 (本レポート対象期間時)



CONTENTS

組織の概要	1
エコアクション 21 への取組み、 実施体制	2
環境経営方針	3
環境経営目標	3
環境経営活動計画	4
環境経営目標の実績	4
環境経営活動計画の取組結果とその 評価、次年度の取組内容	6
環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟 等の有無	7
代表者による全体評価と 見直しの結果	7

対象範囲と対象期間

対象範囲：全社。

富山本社、東京支店
射水支店、試験センター

対象期間：2018 年度(平成 30 年度)
(2018.2.1~2019.1.31)

※当社の決算月に合わせてあります。

I. 基本理念

地域の人たちが安心・安全な生活を送れるように道路を整備し、水路を造り、災害が起きたとしても被害を少なくできる街にすることが我々建設業の仕事です。

我々は舗装工事及び土木工事を通じて、技術の向上はもちろんのこと、的確な管理と品質の確保をおこない、企業活動と持続可能な社会の実現に貢献するため環境マネジメントシステムを運用します。

従来のやりかたでよいでなく、最新の技術や工法なども取り入れ、今まで以上に技術を上げることが求められます。

これからも地域に必要とされる会社となるべく、全員で協力し、挑戦を続けていきましょう。

II. 行動指針

1. 建設機械等から排出する二酸化炭素を、排ガス浄化装置や省エネ運転等を通じて排出量の削減に努めます。
2. 電気使用量を削減し、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 産業廃棄物は法律を遵守し、分別・リサイクルを推進し、廃棄物の適正処理に努めます。
4. コピー用紙使用量の削減に努め、一般廃棄物の削減に貢献します。
5. 節水活動を通じて、水使用量の削減を推進します。
6. 建設現場にて、周辺環境を配慮した、工法・施工を実施します。
7. 環境配慮型事務用品の購入推進、環境に配慮した建設資材等の購入の促進に努めます。

・当社に適用される環境関連法規を遵守し、最新の法規改正に留意し、環境保全に努めます。

・地域の環境貢献活動への参加を推進していきます。

上述の環境方針に沿って事業活動を行い、環境意識を高める為、全社員に周知徹底し、環境への配慮を継続的に行っていきます。

なお、この方針は一般人にも公表します。

改定年月日：平成 31 年 3 月 27 日

昭和建設株式会社

代表取締役

関 章夫

当社の環境負荷軽減のための環境経営目標は3年の中期目標とします。

- ・CO₂排出量削減は、毎年前年比2%削減を目標。
- ・廃棄物排出量削減として、コピー用紙の購入量を毎年前年比2%削減。産業廃棄物の排出量削減は、建設業は設計により自らの判断での削減はできないケースがあるので、法規に従い適正処理100%を目標としています。
- ・総排水量削減としては、毎年度前年の使用量以下に抑える目標としています。
- ・化学物質使用量の削減としては、当社はPRTR法対象物質を取り扱わないので、目標は設定していません。
- ・グリーン購入として、事務用品は環境に配慮した物品の購入比を95%以上とします。
- ・当社が施工する工事に関する環境配慮としては、再生資材の使用の推進(再生アスファルト混合物、再生砕石、等々)、顧客に環境配慮型商品等の情報提供、環境に配慮した再使用・再生しやすい建設資材の促進を行います。
- ・地域の環境貢献活動への参加を推進していきます。

項目	中長期目標（3年間）		
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
CO ₂	前年比-2%	前年比-2%	前年比-2%
総排出量削減	271592kg 以下	288798kg 以下	287337kg 以下
廃棄物 排出量 削減	コピー用紙 509kg 以下	前年比-2% 552kg 以下	前年比-2% 525kg 以下
	産廃削減	リサイクルを推進し、適正処理 100%を目標	
水使用量削減	前年量以下 652m ³ 以下	前年量以下 466 m ³ 以下	前年量以下 399 m ³ 以下
化学物質の削減	-（当社は使用しないので対象外）		
グリーン購入 (事務用品)	95%以上	95%以上	95%以上
工事の環境配慮	再生資材の使用の推進 顧客に環境配慮製品の情報提供 環境配慮建設資材の促進		

環境経営目標達成の為の主要な活動計画は下記の通りです。

・CO₂排出量削減

電気使用量削減として、冷暖房の適正温度の設定、こまめな照明の消灯、待機電力の削減。

ガソリン、軽油、灯油、LPGの使用量削減として、エコドライブ、ストーブの適温設定、低燃費車への入替、ムダ使いの削減。品質目標の手戻り工事「0」を目指し、やり直しなどの、本来なら必要のない工事によるムダな環境負荷を抑制する。

・廃棄物削減

一般廃棄物削減として、コピー用紙の購入量削減のため、裏紙使用、ミスマットの削減、両面コピーの推進、書類の電子化。産業廃棄物は、工事設計により自らの判断での削減はできないケースがあるので、法規に従い、リサイクルし易いよう、分別し、再生資源化施設へ搬入します。

・総排水量削減

総排水量削減として、水道使用量削減のため、こまめな水道蛇口を締める、水洗トイレの入替時には節水タイプを優先入替。

・化学物質使用量の削減

当社は化学物質の取扱いはありません。

・グリーン購入

グリーン購入は、事務用品の環境配慮物品購入を優先します。

・当社が施工する工事に関する環境配慮

建設資材は、再生アスファルト混合物や再生砕石、等、仮設資材もリサイクル製品や再使用できるものは優勢的に再使用する。

・環境関連法規の遵守

法規の遵守のチェックは勿論、排ガス・騒音・振動対策型建設機械等の使用により、周辺環境へ配慮した工法・施工を実施する。

・地域の環境貢献活動への参加

環境美化等の環境貢献活動へ参加します。

当社の環境経営目標は、3ヶ年の中期目標を掲げており、今年度(平成30年度)は、中期目標3年目になり、実績は次の通りです。

- ・CO₂総排出量 **前年比 14.61%増(42,420kg 増)**
- ・コピー用紙購入量 **前年比 10.13%削減(約 54kg 減)**
- ・産廃排出量削減(適正処理) **適正処理 100%**
- ・水使用量削減(上下水道) **前年比 20.80%増(83m³増)**
- ・グリーン購入(事務用品) **環境配慮製品購入比 100%**

今年度の達成状況を見ると、会社全体のCO₂総排出量は、前年度比 **14.61%増加**となり、目標には遠く及ばなかった。その要因については、部門別評価で探りたい。今後も環境負荷軽減活動は、今後も継続して実施していきます。

項目	平成29年度	平成30年度	
	基準年	目標値	実績値
		前年比・実績増減	達成率
CO ₂ 総排出量(kg)	293,201	284610 以下	332,838
【目標：前年比 2%削減】	—	14.61%増 42420kg 増	84.10%
購入電力			
使用量(kWh)	48,391,	47,423 以下	49,307
kWh×0.640※(CO ₂)	30,970.24	30,350 以下	31,556.48
削減値(%、CO ₂ ,kg)	—	1.89%増 586kg 増	97.07%
ガソリン			
使用量(%)	24,380.68	23893 以下	26,193.62
%)×0.0671×34.6	56,603.65	55719 以下	60,812.68
削減値(%、CO ₂ ,kg)	—	7.44%増 4,209kg 増	91.41%
軽油			
使用量(%)	72,988.42	71528 以下	82,797.30
%)×0.0686×37.7	188,764.11	184988 以下	214,132.03
削減値(%、CO ₂ ,kg)	—	13.44%増 25,367 増	85.29%
LPG			
使用量(kg)	2,678.3	2,624 以下	2,350
kg×0.0598×50.2	8,040.15	7,879 以下	7054.61
削減値(%、CO ₂ ,kg)	—	12.26%減 985 減	111.51%
灯油			
使用量(%)	2,424.0	2375 以下	7,738
%)×0.0679×36.7	6,040.44	5919 以下	19,282.55
削減値(%、CO ₂ ,kg)	—	219.22%増 13,242 増	0%
コピー用紙購入量(kg)	535,634	525 以下	481,360
【目標：前年比 2%削減】	—	10.13%減 54kg 減	109.3%
上下水道使用量(m ³)	339	339 以下	482
【目標：前年使用量以下】	—	20.80%増 83 増	78.19%
グリーン購入(事務用品)			
【目標：購入比 95%以上】	—	95%以上 ±0	100.05%
アスファルト合材施工量(t)	10,964.1	—	10892.8
	—	0.65%減 71.3t 減	—

※実排出係数は、平成29年度北陸電力の値を使用しています。

部門別：環境経営目標の実績と評価

【営業部：総務課、東京支店、射水支店含む】

・部門別内訳表【営業部】

項目			前年度	平成30年度		
				実績	前年比	
CO ₂ 総排出量(kg)(部門毎)			37,604	38,530	2.46%増	
購 入 電 力	本 社 射 水	kWh×	31,842	31,907	0.20%増	
		CO ₂	20,378.88	20,420.48		
ガ ソ リ ン	本 社 射 水	※H29 北陸電力実排出係数	3,007	4,097	36.25%増	
		CO ₂	1,924.48	2,622.08		
ガ ソ リ ン	本 社 射 水	リットル×	4,610.43	4,581.58	0.63%減	
		CO ₂	10,703.85	10,636.87		
水 使 用 量	本 社 射 水	上下水道	270	344	27.41%増	
		m ³				
コ ピー 用 紙 購 入 量 (全社)	射 水	上下水道	129	138	6.98%増	
		m ³				
コピー用紙購入量(全社)			Kg	535.634	481.36	10.13%減
環境配慮型事務用品購入			%	100%	100%	100%

【環境経営活動の自己評価】

営業部としては、CO₂排出量が前年比 2.46%増加になってしまった。コピー用紙購入量を除いて、負荷が増えた結果になってしまった。

電力としては、本社がほぼ横ばい、射水支店は大幅増加の結果になった。今年度の夏は、24日連続猛暑日があり、エアコン使用による電力増加があった。本社は秋にビルエアコン入替工事を行い、その間はエアコン使用の電力がなく、年間と昨年と同じような使用量となった。

ガソリンは削減目標に遠く及ばなかった。

コピー用紙購入量は、大幅削減できた。今後も裏紙使用・両面印刷・ミスプリント防止等、使用量削減に努めたい。

上下水道使用量は、本社が特に増加となった。原因はビル屋上の水タンクの亀裂であり、修理を行い、水漏れは止まったことを確認した。

グリーン購入については、継続して環境配慮型事務用品を選びたい。

部門別：環境経営目標の実績と評価

【工事部・建築部：工事監査部、サイト、試験センター含む】

・部門別内訳表【工事部・建築部】

項目			前年度	平成30年度		
				実績	前年比	
CO ₂ 総排出量(kg) (部門毎)			252,814	294,308	16.41%増	
電 力 試 験	ガ ソ リ ン 現 場	kWh×	13,542	13,303	1.76%減	
		CO ₂	8,666.88	8,513.92		
ガ ソ リ ン 現 場	リ ン 現 場	リットル×	713.84	790.60	10.75%増	
		CO ₂	1,657.29	1,835.50		
軽 油 場	L P G 場	リットル×	17,076.38	18,732.04	9.70%増	
		CO ₂	39,645.55	43,489.43		
灯 油 場	現 場	リットル×	72,988.42	82,797.30	13.44%増	
		CO ₂	188,764.11	214,132.03		
L P G 場	灯 油 場	kg×	2,678.3	2,350.0	12.26%減	
		CO ₂	8,040.15	7,054.61		
コ ピー 用 紙 購 入 量 (全社)	現 場	リットル×	2,424	7,738	219.22%増	
		CO ₂	6,040.44	19,282.55		
コピー用紙購入量(全社)			kg	535.634	481.360	10.13%減
産 廃	現 場	産業廃棄物：AS 廃材	t	5095.58	5273.90	3.50%増
		産業廃棄物：Co 廃材	t	845.54	409.77	51.54%減
アスファルト舗装施工量			t	10964.1	10,892.8	0.65%減

【環境経営活動の自己評価】

CO₂ 排出量を見ると、前年度より大幅増加になってしまった。

試験センターの電気使用量は、前年比で 1.76%削減である。10 年前から減少傾向が続いている。

ガソリンに関しては、仕事量・種類の関係もあり大幅増加となってしまった。

軽油に関しても、大幅増加となった。要因として、大雪での除雪に使用するので、増加となった。

灯油の使用量については、年度始めの大雪も影響あるが、年度末の寒中コンクリート養生用に大量使用したため、増加してしまった。

LPGを使用するアスファルト混合物施工量は前年とほぼ同じであるが、LPG使用量は 12.26%削減出来た。過去9年間の年間平均使用量は、約 2670kg であり、今年度は 2350kg であるので削減出来ている。

産業廃棄物については、建設業にとって産業廃棄物の適正処理は当然だが、今後もリサイクルし易いように分別を徹底し、適正処理 100%を維持したい。

環境経営計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容

環境経営計画の取組結果

・CO₂排出量削減

- ・CO₂総排出量 目標値 前年比 2%削減
実績 前年比 14.61%増→目標未達成

・廃棄物削減

- ・コピー用紙購入量 目標値 前年比 2%削減
実績 前年比 10.13%削減→達成
- ・産廃排出量削減（適正処理） 目標値 適正処理 100%
実績 適正処理 100%

・水使用量削減

- ・総排水量（上下水道） 目標値 前年の使用量以下
実績 前年比 20.80%増→未達成

平成 30 年度は中期目標・第 4 期の 3 年目となります。

CO₂総排出量は、及び総排水量は前年比で、目標値には遠く達しなかった。CO₂総排出量の過去 9 年の平均は 327,495kg であり、今年度は 335,995kg であり、平均値より 2.6%多いというデータになる。

水使用量の大幅増加については、本社ビル屋上の水タンクからの水漏れがあり、大幅増加となったが、修理を行い水漏れは止まったので、今後は節水しながら経過を見守りたい。

産業廃棄物は、契約書・マニフェスト・社内検査等によるチェックにて、適正に処理されていることを確認しました。

今後の課題として、本社ビル業務エアコン（低消費電力型）への入替が今年度中に完了したので、本社ビルの照明の LED 化、等が今後の課題である。

工事現場においては、仕事の種類・量・時期等に大きく環境負荷が左右されるが、従来通りエコドライブ等、ムリ・ムダの排除などを行い、環境負荷軽減活動を取り組んでいきたい。

・化学物質使用量の削減

当社は化学物質の取扱いはありません。

・グリーン購入

- ・グリーン購入(事務用品)
目標値 環境配慮製品購入比 95%以上
実績 環境配慮製品購入比 100%
目標を達成できた。今後も環境配慮物品購入を優先します。

・当社が施工する工事に関する環境配慮

従来から行っている、再生アスファルト混合物や再生砕石等の使用。仮設資材もリサイクル製品や再使用できるものは優先的に再使用しました。加えて、使用する資材等が過剰にならないように施工精度を上げるよう、努めています。

現場周辺環境の配慮として、建設重機を排ガス・騒音・振動対策型を使用しています。

平成 29 年 12 月から軟弱土を改良するため、環境に配慮した土壌改良固化材「瞬間吸水材：セルドロン」を推進していきます。従来のセメント系固化材とは違い、六価クロムなどの有害物質の心配はありません。セルドロンはセルロース繊維で構成され、高い吸水性と、特殊な粒子構造により、高含水比の土砂を改良します。

・環境関連法規の遵守

環境関連法規を遵守し、必要な産廃契約・マニフェストの交付、必要な届出等を実施しました。

工事現場においては、排ガス・騒音・振動対策型建設機械等の使用を確認しました。

・地域の環境貢献活動への参加

平成 30 年 7 月に高岡市建設業協会の環境美化活動へ参加しました。

次年度の取組内容

CO₂総排出量は、仕事の種類・量・気温等に左右されることが多く、維持管理にはまだ感じている。前の中期と同じく前年比 2%削減を環境経営目標としたい。

廃棄物排出量削減としてのコピー用紙購入量削減は近年順調に削減できているので、継続して環境経営目標は前年比 2%削減としたい。

水使用量の削減は、昨年は水タンクの水漏れ等があったので、環境経営目標は前回と同じく前年の使用量以下に抑えるにしたい。

事務用品のグリーン購入は、環境に配慮した事務用品が最近では増えてきたので、目標数値を少し高く、98%目標としたい。

当社が施工する工事に関する環境配慮は、引き続き同じ目標としたいが、業界の動向に注視し、新たなる技術・工法があれば、積極的に取り入れたい。

以上を踏まえ、来年度以降の環境経営目標は、新たなる3年の中期目標とし、目標値は下記の通りとしたい。

- ・CO₂総排出量 **前年比2%削減目標**
- ・コピー用紙購入量 **前年比2%削減目標**
- ・産廃排出量削減(適正処理) **適正処理100%目標**
- ・水使用量(上下水道) **前年の使用量以下目標**
- ・グリーン購入(事務用品)

環境配慮製品購入比98%以上

- ・当社が施工する工事に関する環境配慮
再生資材の使用の促進、顧客に環境配慮型商品等の情報提供(セルドロン[®]の推進を含む)
- ・環境関連法規の遵守
法規の改正情報の入手に注意し、法規の遵守。
- ・地域の環境貢献活動への参加
従来通り、積極的に参加する。

環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果

環境関連法規等の遵守状況については、外部審査に於いて軽微な指摘がありましたが、すぐに是正され、水平展開され、問題は解決しました。

その他の環境関連法規の遵守状況は、確認した結果、違反は認められませんでした。

建設業として重要な廃棄物処理法等の確認として、産業廃棄物(がれき類、等)の処理については、処理施設への100%搬入されていることを、産廃契約書・マニフェスト・設計書との搬入数量の差異、建設工事現場では社内検査等によって確認し、適正処理していることを確認しました。

違反及び訴訟の有無

関係機関からの違反等の指摘はなく、利害関係者からの訴訟等についてもありません。

代表者による全体評価と 見直しの結果

		日付	平成31年 3月27日	
確認・評価項目	確認	確認・評価項目	確認	
環境経営目標達成状況	✓	環境法規等の遵守状況	✓	
環境経営計画の実施	✓	外部からの環境に関する	✓	
環境経営活動運用結果	✓	苦情、要望		

環境への取組について、代表者の評価

環境経営システムが有効に機能しているか	適	不適
環境への取組は適切に実施されているか	適	不適

見直しの必要性

環境経営方針、又は、環境経営目標	あり	なし
環境経営活動計画	あり	なし
環境経営システム全般	あり	なし
実施体制	あり	なし
その他()	あり	なし

見直しの具体的内容及び指示事項

【環境経営方針・環境経営目標】

今年度の環境経営活動の結果は、二酸化炭素総排出量は大幅増加、コピー用紙購入量は大幅削減、総排水量は大幅増加であり、全体的にあまり良い結果でなかった。

今年度で中期目標が終わり、更に、エコアクション21 建設業者向けガイドライン2017版が公表されたので、新たな環境経営方針並びに中期環境経営目標を設定したい。

それに伴い、環境経営計画も見直し、改善したい。

実施体制として、新たなる環境管理責任者を任命したい。

